

大項目	書くこと
小項目	作文
タイトル (教材名)	作文メモを使って作文をしよう！(中級編)
目的 身につけてほしい力	<ul style="list-style-type: none"> ・段落ごとに内容をしぼって文章を書く。 ・メモの内容を清書したり、清書した文章を朗読したりすることで、段落ごとの意味のまとまりや文脈を理解する。
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	<div style="display: flex; flex-direction: column;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start; padding: 10px;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○開会式ではどのような気持ちでしたか？</p> <p>ヒント・早にきている人がたくさんいましたが、緊張はしませんでしたか？</p> <p>・今日一日をどのような日にしたいと思っていましたか？</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○開会式ではどのような気持ちでしたか？</p> <p>ヒント・朝、学校に行くまではどんな気持ちでしたか？</p> <p>・学校に着いてからはどのように過ごしていましたか？</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>●「月 日の土曜日に運動会がありました。」</p> <p>ヒント・当日の天気はどうでしたか？</p> </div> </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <p>作文メモ</p> <p>題名 『運動会の思い出』</p> <p>クラス 名前</p> <p>名前 ()</p> </div> </div> <div style="display: flex; flex-direction: column; margin-top: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start; padding: 10px;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○運動会全体を通しての感想と、これからの二学期の過ごし方を書きましょう。</p> <p>ヒント・年生の競技以外のことを書いてもいいです。</p> <p>・月 日には、学習発表会(劇)があります。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>●「星ごはんを食べてから走競技がありました。」</p> <p>ヒント・何位でしたか？</p> <p>・競技が終わって、どのような気持ちでしたか？</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>●「開会式が終わってすぐに 体操と棒引きがありました。」</p> <p>ヒント・体操ではどのように動きましたか？</p> <p>・棒引きはどうでしたか？</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>最後に、原稿用紙に清書をします。ゆっくり、ていねいに書きましょう。</p> </div> </div>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ B4 の原稿用紙を A4 に縮小し、段落の文量に合わせて原稿用紙を切る。 ・ 切った原稿用紙を、「●」や「○」などの、段落ごとの指導者からの内容の提示の後に貼る。 ・ 原稿用紙のマス目をパソコンで作成してもよい。
教材の使用方法	<ol style="list-style-type: none"> ① 指導者は、段落ごとに書く内容をあらかじめ示す。 ② 児童生徒は、「●」から始まる段落は「 」の中の文章を書き写す（段落初めの文章）。「○」から始まる段落では、児童生徒は書かれている内容を読み、文章を考えて書く。 ③ 児童生徒は、内容を考えて書くことがむずかしい際は、各段落の「ヒント」に書かれている文章を読み、書く内容を考える。 ④ 児童生徒は、すべての段落を書き終えたら、原稿用紙に清書をする（メモを順番に書き写す）。その際、指導者は、児童生徒がメモに書いた文章のみを原稿用紙に書き写すことを、児童生徒にあらかじめ伝えておく。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者は「●」や「○」の段落のルールをあらかじめ児童生徒に伝えておく。 ・ 発展した形として、「ヒント」の量を少なくする、「ヒント」をなくす、などが考えられる。 ・ 接続詞の学習（逆接は「しかし」、添加は「そして」、説明は「なぜなら」、並列は「また」など）を事前に行っておくと、児童生徒は文章の書き出しに迷うことが少なくなると考えられる。 ・ あらかじめ、「いつ・どこで・誰が・何を・どのように」といった内容を書くことを意識させる言葉かけや視覚による提示を行うことも有効である。 ・ 児童生徒は、指導者によって段落ごとにある程度指定された内容を書くことで、「書けた！」という達成感が得られやすい。 ・ 原稿用紙への清書ができた後に、書いた文章を児童生徒本人が朗読することで、文章の構成や段落ごとの意味のまとめや文脈を聴覚情報によって感じることができる。 ・ 指導者が 5W1H などの情報について聞くと、口頭で答えられる児童生徒の授業において、何度も作文メモの学習を行うことで、項目（いつ、どこで、誰が、何を、どのように、など）を整理して書く習慣がついた児童生徒の姿が見られた。